

マンツーマン推進リーフレット「なぜマンツーマンが必要か？」(2017年11月発行) 差込資料

マンツーマンの運用における一部変更がありました。これに伴い、リーフレットの内容に以下のとおり変更がありますのでご確認くださいませようお願いいたします。(※網掛け・下線部分が変更点)

なお、変更内容の詳細は別紙「マンツーマン推進の運用における変更点」(2017年12月9日付)にてご確認ください。

P13 (マンツーマンの基準規則)

4. オフボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフェンス側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン(オフェンス側プレイヤー)及びボールも見えるポジションを取ること(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンス側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く)。ただし、フェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフェンス側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフェンス側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。ただし、ヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは違反である。ただし、制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。

P20 (マンツーマンの基準規則の補足解説)

◆トラップについて(「マンツーマンディフェンスの基準規則 2. プレスディフェンス 及び 4. オフボールディフェンス」に関する補足)

- ・ミニバスケットボールにおいて、ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおりとする。
 - (1) ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
 - (2) パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
 - (3) 移動が容易に行える距離にある時(自分のマークマンとボールマンの距離の目安: 2~3m)

※U15(中学生)では上記(1)~(3)を適用せず、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。

※「マンツーマンディフェンスの基準規則」および「~~同~~補足解説マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説」におけるトラップの定義: ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

◆予測に基づくプレイについて

・U15(中学生)においては、マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレイとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。

※予測に基づくとは、予測の根拠となる動きがあることを示す。

※マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。

※ミニバスケットボールにおいては本項は適用しないが、「マンツーマンディフェンスの基準規則」通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。

マンツーマン推進の運用における変更点

【変更内容】

①、②は U15(中学)カテゴリーのみ、③は U12(ミニ)・U15(中学)カテゴリーの両方において変更する。

①「マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレイとコミッショナーが判断した場合は、基準規則違反とは見なさない。」…U15(中学)カテゴリーのみ

<補足>

- ・「予測に基づく」とは、予測の根拠となる動きがあることを示す。
- ・マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。
- ・ミニバスケットボールにおいては本内容は適用しないが、下記③の通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。

※U15(中学)年代では、バスケットボールの経験値、技術、バスケットボールの理解度も上がることから、選手自身の予測を伴うプレイを許容する。ただし、U12(ミニバスケットボール)年代では、バスケットボールを学ぶ入口であることであり、基礎を身に付けることが優先であるため適用しない。

②「ボールを保持しているプレイヤーへのトラップは許される。」…U15(中学)カテゴリーのみ

<補足>

- ・U15(中学)年代では、ドリブルの有無、ボールマンへの距離に関係なく、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。
- ・ただし、マンツーマンディフェンスを行っている中でトラップすることが前提であり、トラップ解消後はマークマンに戻らなければならない。

③「制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。」…U12(ミニ)・U15(中学)カテゴリー両方

【導入時期】

	2017 年度	2018 年度
U15(中学)	「第 31 回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会 2018」において導入する。 上記以外の大会においては、大会主催者の判断に委ねる。	完全実施
U12(ミニ)	「第 49 回全国ミニバスケットボール大会」においては導入しない。(改定前のルールにて実施) 上記以外の大会においては、大会主催者の判断に委ねる。	完全実施